



# 基礎看護学実習Iにおけるリフレクティブジャーナル 導入の効果 : リフレクティブなスキルの活用の有無 による検討

中田, 康夫 ; 田村, 由美 ; 藤原, 由佳 ; 森下, 晶代 ; 平野, 由美 ; 石川,  
雄一 ; 津田, 紀子

---

## (Citation)

神戸大学医学部保健学科紀要, 18:131-136

## (Issue Date)

2002-12-20

## (Resource Type)

departmental bulletin paper

## (Version)

Version of Record

## (JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/00333034>

## (URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00333034>



## 基礎看護学実習 I におけるリフレクティブジャーナル導入の効果：リフレクティブなスキルの活用の有無による検討

中田 康夫<sup>1</sup>、田村 由美<sup>1</sup>、藤原 由佳<sup>2</sup>、森下 晶代<sup>3</sup>、  
平野 由美<sup>1</sup>、石川 雄一<sup>1</sup>、津田 紀子<sup>1</sup>

### 要 約

本研究は、基礎看護学実習 I の実習日誌として学生に課したリフレクティブジャーナル（以下、RJ）の内容を分析・検討し、RJ におけるリフレクションに必須なスキル（以下、リフレクティブなスキル）の活用の有無を明らかにするとともに、RJ がリフレクティブなスキルの修得に効果があるかどうかを検討することを目的とした。実習期間中に毎日提出された58名のRJにおいて、リフレクションの必須スキルと考えられている「自己への気付き」のスキルおよび「記述・描写」のスキルが活用されているかどうかについて、各々の定義をもとに詳細に分析・検討を行った。その結果、「記述・描写」のスキルの活用が、5日間のRJのうち少なくとも1日分のRJにおいてみられた学生は全員であったが、「自己への気付き」のスキルを活用のそれについては15.5%であった。以上のことから、実習日誌としてのRJはリフレクティブなスキルのうち「記述・描写」のスキルの活用・修得を促し、なおかつ「自己への気付き」のスキルの活用・修得を促進する1つの方法になり得ることが示唆された。したがって、実践的思考能力に必要不可欠であると考えられているリフレクティブなスキルの修得のために、基礎看護学実習 I においてRJを導入することは意義あるものと考えられた。

索引用語：リフレクション、リフレクティブなスキル、リフレクティブジャーナル、  
実践的思考能力

### 緒 言

本学で開講している基礎看護学領域の科目のうち、看護援助過程論、看護援助技術演習、基礎看護学実習 I・II の4科目の教授学習過程では、昨年度から一貫して学生の実践的思考能力、すなわち「その人とその人を取り巻く状況を的確に判断し、状況に応じた看護を実践できる能力」<sup>1)</sup>が向上するように工夫を凝らしている。このうち基礎看護学実習 I は、必修科目として2年次前期に1単位を開講しているが、本

実習では実践的思考能力に必要不可欠であると考えられているリフレクションに必須なスキル（以下、リフレクティブなスキル）の修得に向け、実習記録の1つとしてリフレクティブジャーナル<sup>2)</sup>（実習日誌：以下、RJ）を導入している。

リフレクションの5つの必須スキルとして、「自己への気付き」「記述・描写」「分析」「統合」「評価」が明らかにされており<sup>3)</sup>、その修得過程は「自己への気付き」を土台として、他の4つのスキルが順に積み上げられるようにして

1. 神戸大学医学部保健学科
2. 大阪府立看護大学大学院看護学研究科修士課程
3. 神戸大学大学院医学系研究科博士後期課程

修得されることが示唆されている<sup>2,3)</sup>。これをもとに、基礎看護学実習Ⅰにおけるスキルの活用・修得目標を、実習そのものの目標と照らし合わせて、「自己への気づき」および「記述・描写」と設定して実習を行っている。

リフレクションならびにリフレクティブなスキルに関しては、欧米を中心に十数年前から研究が進められており、RJに関する文献<sup>4-11)</sup>も数多くみられる。しかし、わが国においてはリフレクションの教育への導入ならびに研究は緒についたばかりであり、リフレクションに関する研究論文はほとんどみられない。また、RJならびにリフレクティブなスキルに関する文献に至っては皆無であり、文化ならびに教育背景の異なるわが国の看護教育において、RJによりどのように学生がリフレクティブなスキルを活用・修得するのかは明らかではない。

本研究は、基礎看護学実習Ⅰにおける学生のRJの内容を分析・検討し、RJにおけるリフレクティブなスキルの活用の有無を明らかにするとともに、RJがリフレクティブなスキルの活用・修得に効果があるかどうか検討することを目的とした。

なお、リフレクティブなスキルのうち、本研究で用いた「自己への気づき」および「記述・描写」のスキルの操作的定義は以下のとおりである。

「自己への気づき」のスキルとは、「自分自身の性格、信念、価値（観）、特性（本質）、強みや弱み（自分の能力の限界）を意識することであり、それは自分自身について知ること」<sup>2,3,12)</sup>と定義した。

また、「記述・描写」のスキルとは、「経験した最も顕著で重要な事柄や出来事を正確に再現し、それを認める能力を含み、その状況の正確な全体像を提供する。リフレクションにおいて、記述は（あなたが）経験した実践での重要な出来事や問題について再現するスキルであり、良い記述はその状況がはっきりと正確に、かつ全体がわかるように記述されている」<sup>2,3,12)</sup>と定義した。

## 対象と方法

### 1. 対象

対象は、2001年度に基礎看護学実習Ⅰを履修し、RJを提出した本学2年生88名のうち、RJを本研究の材料として使用することに同意した86名（97.7%）の中で、本研究者が実習指導教師として関わった58名。

なお、倫理的配慮として、口頭および紙面により本研究の目的や、承諾の可否は成績評価と一切関係ないことなどを説明し、書面をもって承諾の意思を確認した。

### 2. 方法

#### 1) RJの記述方法に対する教示

実習開始にあたって、学生にリフレクションの背景、定義、目的など<sup>1,2)</sup>に関する説明を行った。その上、RJにはその日最も印象に残ったことを、

- ①なぜその場面・状況を選択したのか？
- ②その場面・状況は何をしようとして起こったのか？
- ③そのときの感情はどのようなものであったか？
- ④そのときの判断や自分のとった言動はどうであったか？
- ⑤その場面・状況に必要な知識やスキルはどのようなことか？

の5項目にそって記述するように説明した。RJは実習期間中（連続5日間）毎日、その日のうちに記録し、翌朝提出することを求めた。RJの記述内容に対しては、実習担当教師がその都度コメントを加え返却するとともに、適宜面接指導を行った。

#### 2) 分析方法

最初に、研究者全員で用語の操作的定義を確認し、「自己への気づき」のスキルおよび「記述・描写」のスキルがRJ上にどのように記述されていることが当該スキルの活用にあたるのかを共通理解した。次に、5日間のRJにおいてこれら2つのスキルの活用があったかどうか研究者全員で検討し、合意を得た。

なお、本分析では、各々のスキルの内容<sup>2,3,12)</sup>が一部でも、そして1日分でもRJ上に認められれば、当該スキルの活用がなされていると判断した。

## 結 果

表1に「記述・描写」のスキルを活用していると判断できた学生の記述例を示した。このような「記述・描写」のスキルの活用がRJ上でなされていると判断できた学生は全員であった。

一方、表2には「自己への気付き」のスキルを活用していると判断できた学生の記述例を示した。このような「自己への気付き」のスキルの活用がRJ上でなされていると判断できた学生は9名(15.5%)であった。

なお、「記述・描写」のスキルの活用ならびに「自己への気付き」のスキルの活用については、各々のスキルの内容をすべて網羅している深い記述もあれば、その一部の内容のみを満たしている浅い記述もみられるなど、記述の程度には学生個々で差が認められた。

## 考 察

基礎看護学実習ⅠのRJにおけるリフレクティブなスキルの活用・修得目標に設定したうちの「自己への気付き」のスキルは、リフレクティブな学習や専門的な看護実践にとって必須であり、自分の信念や価値(観)、態度についての知識やそれらが他の人にどう影響しているのかといったことに関する知識は、治療的な関係性の開発やより良い対人関係スキルを開発するためには根幹となることであるといわれている<sup>1)</sup>。また、「記述・描写」のスキルについては、よい記述・描写の能力は、患者について同僚と話し合うときや患者の回復過程をはっきりと正確に記録するために必要であり、リフレクションを用いる上で記述・描写は、実践の中から、重要な出来事を想起してそれに関する事柄を再

表1 RJにおける「記述・描写」のスキルの活用例

実習初日、患者さんと直接お話する機会を、楽しみにしていたが反面とても緊張しました。  
患者さんと話をした中で印象に残ったのは、病気が生活に与える影響の大きさでした。私が「何か楽しみがありますか?」と聞くと、患者さんはため息をつきながら「楽しみはないねえ。眼が元のように見えるようになればやりたいこともたくさんあるのに・・・」とおっしゃいました。やりたいこととは具体的にどういうことなのだろうと思って尋ねると、「眼が治ったら筆で文字を書きたい。好きなんです。本も読みたいし、新聞も読みたい」とおっしゃいました。でもすぐに少し暗い表情になられて、「でも治るかどうか分からないしねえ。今まで近所のお年寄りの集まりに誘われても『まだまだ年寄りじゃない』といって断っていたんだけど、やっぱり入ろうかねえ・・・」と手術をした眼が見えるようになるのがとても不安な様子でいらっしゃいました。その様子を見ていて、病気というものは身体的に与える影響も大きいけれど、精神的にも社会的にも大きな影響を与えることをすごく強く感じました。(中略)この患者さんは、病気のために好きだった書道が困難になり、やる気も起きなくなっているようです。また楽しみを見つけられず、老いも感じているようです。どのようにしたらこの患者さんの気持ちを軽減することができるのだろうか考えていきたいと思いました。

表2 RJにおける「自己への気付き」のスキルの活用例

今日一番心に残っていることは、ケアをとおして見た自分の性格という考え方です。先生に接し方がごちないと言われて、すごく悩んで考えました。(中略)たぶん初日から本当に質問したいことを聞けぬまいつもそのことが気になって話を聞いていても入りこめてない状態だったと思う。最初はTさんがシャイな人だから質問しても答えてくれたんじゃないか、とか話を切り出すタイミングが難しいから・・・、と思ってたけど、今日ははっきり感じた。聞けないんじゃないかと私が聞かないんだなあ、と思った。患者さんに対してその方の今一番気になってる重大な部分とかを聞くのが怖い。人の痛いところを質問するのが恐くて聞く勇気がない。そんな自分がいるのではないかと思った。じゃあなんで恐いのかなと考えました。それはたぶん自分がそのことを受け止める自信がないから。(中略)すごく自分に劣等感というかコンプレックスをもっている気がする。自分に自信が今全くないから、心から自分に自信をもてる部分を発見できないから。だから私にそんな重い話をされても怖い・・・、と思っている自分があるからだと思います。(以下、省略)

収集するためのスキルであるといわれている<sup>2)</sup>。

一方、RJの活用は、学生ならびに教師の両方にとって、1つの学習手段・方法として有用なものであるといわれている<sup>4)</sup>。また、RJは自己分析とクリティカルシンキングを向上させ、看護実践を導き出すための利用可能な理論の重要性を再認識させ、メンターシップモデルにおける学生と教師の良い関係を構築するのに役立つと考えられている<sup>5-9)</sup>。さらに、RJにおいて実践での経験を記述することによって、自分たちが何をしているのかといった、実践の微細な部分をよりたやすく明らかにすることができるようになるが、これは看護の専門性を明らかにしようと努力している看護専門職者にとっての1つの価値あるスキルであるといわれている<sup>2)</sup>。これらのことから、RJを活用して、リフレクティブなスキルを看護基礎教育における早期の段階で修得させることは、実践的思考能力を高めるという点においても意義深いことであると考えられる。

今回、基礎看護学実習Ⅰの実習日誌としてRJを導入した結果、「記述・描写」のスキルは全員の学生がRJにおいて活用されており、また、「自己への気づき」のスキルが活用でき、さらにそのスキルが修得されたと判断できた学生が少数ながらも認められた。このように実習日誌であるRJにおいてリフレクティブなスキルの活用が行われたのは、従来の実習日誌とは違い、RJがリフレクションの考え方に基づいて、その日最も印象に残ったことを自分の感情も含めて詳細に記述するという方法を採用していたからであると考えられる。

一方、「記述・描写」のスキルは全員の学生に活用されていたにもかかわらず、「自己への気づき」のスキルの活用は一部の学生にしか認められなかった。このことから、リフレクティブなスキルの活用・修得に関しては、「記述・描写」のスキルのほうが「自己への気づき」のスキルに比べ先に容易に活用・修得されること、つまり、「自己への気づき」のスキルは「記述・

描写」のスキルに比べその活用・修得が容易ではないことが示唆される。前述したように、本結果が得られるまでは、リフレクションに必須なスキルの修得は「自己への気づき」のスキルを土台として、その上に「記述・描写」のスキルが積み上げられるようにされと考えていたが、「記述・描写」のスキルを全員の学生が活用していたにもかかわらず、リフレクションに必須な5つのうちの筆頭に挙げられている「自己への気づき」のスキルを活用していた学生がきわめて少なかった。これは、書くことが自らの思考や考え方の整理につながるという面があるにもかかわらず、書くための「記述・描写」のスキルが十分に修得できないと、自己の信念や価値観に気付くという「自己への気づき」のスキルの修得には至らないということに起因しているのではないかと考えられる。また、欧米に比べ、自己の内面や感情を表に出すことを良しとしないわが国の文化的な背景に起因している可能性も考えられる。

今回の結果では、各々のスキルの活用においては学生個々において程度の差が認められた。このことから、本研究には、RJの記述内容に影響すると予測されるRJの記述方法に対する学生間の理解の程度の差について明らかにしておらず、また、学生に対して行った教師の指導方法ならびにその内容についての個々の教師間での差についても考慮していないなどの限界があると考えられる。しかしながら、本研究結果からは、実習日誌としてのRJはリフレクティブなスキルのうち「記述・描写」のスキルの活用ならびに修得を促し、なおかつ「自己への気づき」を促進する1つの方法になり得ることが示唆された。したがって、今後、リフレクティブなスキルの活用ならびに修得を促進する目的でRJを活用するためには、RJへの記述方法に関する説明方法や記述内容に対する教師の指導方法の開発が重要であると考えられる。また、RJの分析・検討を継続して進めていき、わが国におけるこれらのスキルの修得過程を明らかにすると同時に、その修得過程に見合った指導

方法を開発することによって、実践的思考能力を高めていくことが必要であると考ええる。

## 結 語

基礎看護学実習Ⅰの実習日誌として提出されたRJにおいて、リフレクションに必須なスキルである「自己への気付き」のスキルおよび「記述・描写」のスキルが活用されているか明らかにするとともに、RJがリフレクティブなスキルの修得に効果があるかどうか検討した。

1. 「記述・描写」のスキルは、全員の学生が活用することができていた。
2. 「自己への気付き」のスキルを活用できていた学生は、対象者の15.5%と少数に留まっていた。
3. 基礎看護学実習ⅠにおいてRJを導入することによって、リフレクションに必須なスキルである「自己への気付き」のスキルならびに「記述・描写」のスキルの活用が促進され、それらのスキルの修得につながる可能性が示唆された。

本研究の一部は、日本看護学教育学会第12回学術集会において発表した。

## 文 献

1. 田村由美、藤原由佳、中田康夫、他. オックスフォード・ブルックス大学におけるリフレクションを活用した看護教育カリキュラムの背景と概要. *Quality Nursing* 8 (4): 41 - 47, 2002.
2. Burns S and Bulman C. *Reflective practice in nursing: The growth of the professional practitioner*. 2nd ed., London, Blackwell Science, 2000.
3. Atkins S and Murphy K. *Reflection: a review of the literature*. *Journal of Advanced Nursing* 18: 1188 - 1192, 1993.
4. Riley-Doucet C and Wilson S. A three-step method of self-reflection using reflective journal writing. *Journal of Advanced Nursing* 25: 964 - 968, 1997.
5. Callister LC. The use of student journals in nursing education: Making meaning out of clinical experience. *Journal of Nursing Education* 32 (4): 185 - 186, 1993.
6. Cameron BL and Mitchell AM. *Reflective peer journals: Developing authentic nurses*. *Journal of Advanced Nursing* 18: 290 - 297, 1993.
7. Reed J and Procter S. *Nurse Education: A reflective approach*. London, Edward Arnold, 1993.
8. McAlpine L. *Learning to reflect: Using journals as professional conversations*. *Adult Learning* 3 (4): 23 - 24, 1992.
9. Osterman K. *Reflective practice: A new agenda for action*. *Education and Urban Society* 22 (2): 33 - 152, 1990.
10. Wellard SJ and Bethune E. *Reflective journal writing in nurse education: whose interests does it serve?* *Journal of Advanced Nursing* 24: 1077 - 1082, 1996.
11. Wong FKY, Kember D, Chung LYF, et al. Assessing the level of student reflection from reflective journals. *Journal of Advanced Nursing* 22: 48 - 57, 1995.
12. 田村由美、中田康夫、藤原由佳、他. リフレクションを行うために必須なスキル開発. *Quality Nursing* 8 (5): 51 - 57, 2002.

## The Effectiveness of Introducing Reflective Journal into Basic Nursing Clinical Placement : An Examination into the Extent Students Use Reflective Skills

Yasuo Nakata<sup>1</sup>, Yumi Tamura<sup>1</sup>, Yuka Fujiwara<sup>2</sup>, Akiyo Morishita<sup>3</sup>,  
Yumi Hirano<sup>1</sup>, Yuichi Isikawa<sup>1</sup>, and Noriko Tsuda<sup>1</sup>

**ABSTRACT :** The purposes of this study were clarifying how students actually used necessary skills when writing a reflective journal and whether writing of a reflective journal was effective to learning reflective skills, as evident in reflective journals. The contents of reflective journals, that student were required to write as a basic-nursing clinical-training diary, were analyzed. We obtained reflective journals of 58 students, who submitted a diary every day during a five-day training period. Analysis on the reflective journals was performed for the use of the following two necessary reflective skills : “self awareness” and “description”. As a result, all students used the skill “description” at least in one day s reflective journal. However, the skill “self awareness” was used by 15.5% of the students. From the results it was concluded that the reflective journal as a clinical training diary promoted the learning of practical use of the skill “description”. The results also suggested that reflective journals might become one learning-teaching method of promoting of the skill “self awareness”. In conclusion, introduction of writing reflective journals into basic nursing clinical-training may be meaningful for the acquirement of reflective skills, which is thought of as indispensable to clinical thinking abilities.

**Key Words :** Reflection, Reflective skills, Reflective journal, Clinical thinking abilities

---

1 . Faculty of Health Sciences, Kobe University School of Medicine

2 . Master Course, Graduate School, Osaka Prefecture College of Nursing

3 . Doctoral Course, Division of Health Sciences, Graduate School of Medicine, Kobe University